

令和4年度 行政評価調書

■ 施策の概要

(第7次総合計画 基本計画 P.148～150)

| | | | |
|----------------------------|---|-------|-------------|
| まちづくり 6つのテーマ | テーマ6 生きがいにあふれ、人と文化を育むまち(生きがい・文化) | | |
| 施策名 | 6-1 社会教育 | | |
| 所管部 | 教育部 | 関係部 | 生活環境部・福祉保険部 |
| この施策の 目指すべき姿と その展開方向 | <p>(第7次総合計画 基本構想 P.45)</p> <p>市民一人ひとりが、豊かな人生を送ることができるよう、生涯を通じて多様に学び、その学習成果を社会へ生かすことができる生涯学習社会の実現を目指します。</p> <p>このため、多様なニーズに応じた学習機会の提供に努めるとともに、「学び」と「活動」の循環を形成する社会教育活動を促進します。</p> <p>また、学習や情報発信の拠点となる社会教育施設の整備や機能の充実に努めるとともに、様々な学習機会を提供することにより、市民の利用促進を図ります。</p> | | |
| 市民アンケート 指標 | 生涯学習に興味のある市民の割合 | 基準値 | 目標値 |
| | | 48.0% | 基準値より増 |

■ 施策の内容(小施策)

(第7次総合計画 基本計画 P.148～150)

| | | | | |
|-----------------|--------------------|--|----------|----------|
| 小施策 及び 指標 | (1)「学び」と「活動」の循環の推進 | | 基準値 | 目標値 |
| | 指標 | 地域のボランティアと連携して実施する教育支援活動推進事業の回数 | 2,245回 | 2,600回 |
| | (2)生涯各期における学習機会の充実 | | 基準値 | 目標値 |
| | 指標 | 「市民大学講座、はつらつ講座、やんぐすくーる、生活講座、老壮大学」の人口に対する参加者の割合 | 2.0% | 2.2% |
| | (3)図書館の利活用の促進 | | 基準値 | 目標値 |
| | 指標 | 市民一人当たりの貸出冊数 | 2.89冊 | 3.20冊 |
| | (4)総合博物館の利活用の促進 | | 基準値 | 目標値 |
| | 指標 | 入館者数(本館・運河館) | 120,237人 | 140,000人 |
| | (5)文学館・美術館の利活用の促進 | | 基準値 | 目標値 |
| | 指標 | 入館者数(文学館) | 9,138人 | 11,000人 |
| | 入館者数(美術館) | 11,524人 | 13,000人 | |

令和4年度 行政評価調書

■施策の評価(一次評価)

| | | | | | | |
|---|---|---|--|---------|--------|----------|
| まちづくり 6つのテーマ | テーマ6 生きがいにあふれ、人と文化を育むまち(生きがい・文化) | | | | | |
| 施策名 | 6-1 社会教育 | | | | | |
| 所管部 | 教育部 | 関係部 | 生活環境部・福祉保険部 | | | |
| 市民アンケート 指標 | 生涯学習に興味のある市民の割合 | 基準値 | 令和3年度 | 令和5年度 | 目標値 | |
| | | 48.0% | 47.5% | | 基準値より増 | |
| 市民アンケート 指標の推移 | △ | ◎:指標の推移は順調 △:指標の推移は順調でない ー:判定不能(実績値なし) | | | | |
| 各小施策の 指標の推移 | 指標 | | 基準値 | 実績値 | 推移 | 目標値 |
| | (1) | 地域のボランティアと連携して実施する教育支援活動推進事業の回数 | 2,245回 | 1,321回 | △ | 2,600回 |
| | (2) | 「市民大学講座、はつらつ講座、やんぐすくーる、生活講座、老壮大学」の人口に対する参加者の割合 | 2.0% | 0.6% | △ | 2.2% |
| | (3) | 市民一人当たりの貸出冊数 | 2.89冊 | 2.27冊 | △ | 3.20冊 |
| | (4) | 入館者数(本館・運河館) | 120,237人 | 63,343人 | △ | 140,000人 |
| | (5) | 入館者数(文学館) | 9,138人 | 6,968人 | △ | 11,000人 |
| | | 入館者数(美術館) | 11,524人 | 8,726人 | △ | 13,000人 |
| 指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△) | | | | | | |
| 【一次評価】 達成度の向上 等へ向けた今後 の方向性 | D-1 | (指標推移) A:各指標の推移は順調 B:各指標の推移は概ね順調 C:各指標の推移はあまり順調でない D:各指標の推移は順調でない | (改善内容等) 1:主な予算事業等をそのまま継続して推進する 2:主な予算事業等を改善しながら推進する 3:主な予算事業等の内容の全面的な見直しを行う | | | |
| 総評及び今後の 具体的方針 ほか特記事項 | <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度に引き継ぎ、令和3年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、社会教育施設等の休館や様々な講座の中止措置、活動内容や定員に制限が設けられた期間があり、また、市民も外出を控えていたことにより、例年に比べ講座の受講者や入館者数が減少している。 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を取りながら、市民の生涯学習の場の創出に努めていく。 | | | | | |

■有識者会議による点検 (対象 非対象)

| | |
|------|--|
| 点検結果 | <ul style="list-style-type: none"> 小施策(2)については、民間が開設する生涯学習講座などとの連携や情報収集も行ったうえで、学習機会の充実を図ることが必要。 小施策(3)について、「まちなか図書館」の取組については市民への周知が不足しているため、より効果的なPR方法を検討すべき。 小施策(5)文学館・美術館の利用促進について、市内の民間美術館との共通券を発行するなどの連携を検討すべき。 博物館や文学館・美術館の休館日について、クルーズ客船の入港時に合わせて変更するなど、観光客を意識して利用促進につながる柔軟な対応が必要。 |
|------|--|

■施策の評価(二次評価)

| | | | |
|-------------------------------------|--|---|--|
| 【二次評価】 達成度の向上 等へ向けた今後 の方向性 | D-1 | (指標推移) A:各指標の推移は順調 B:各指標の推移は概ね順調 C:各指標の推移はあまり順調でない D:各指標の推移は順調でない | (改善内容等) 1:主な予算事業等をそのまま継続して推進する 2:主な予算事業等を改善しながら推進する 3:主な予算事業等の内容の全面的な見直しを行う |
| 上記特記事項 | <ul style="list-style-type: none"> 小施策(2)生涯各期における学習機会の充実については、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底しながら、学習機会の提供に努めるとともに、市民の自発的なサークル、民間の生涯学習に関する講座などとの連携を図りながら、魅力的な講座の開設に努めること。 「まちなか図書館」については、取組や実施箇所に関する情報提供の効果的な方策を検討の上で、周知を強化し、市民の読書機会の拡充に努めること。 文学館・美術館については、民間の美術館との連携や観光客を意識した開館スケジュールを検討するなど、相乗効果を意識した利用促進策を検討すること。 | | |

令和4年度 行政評価調書(小施策検討シート)

(1)「学び」と「活動」の循環の推進

(第7次総合計画 基本計画 P.148)

| 指標 | 指標名 | | 指標の基準年 | | 基準値 | 目標値 | | |
|---------------------------------|--|--|--|--------|--------|------------|-------|--|
| | 地域のボランティアと連携して実施する教育支援活動推進事業の回数 | | 平成30年 | | 2,245回 | 2,600回 | | |
| | 年度ごとの実績値 | | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | |
| | | | 2,131回 | 1,652回 | 1,321回 | | | |
| 指標推移 | △ | ◎ : 指標の推移は順調 △ : 指標の推移は順調でない - : 判定不能(実績値なし) | 指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例: 実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△) | | | | | |
| 主な取組 | <p>★社会教育団体などと連携した取組の推進(教育部生涯学習課) ○地域で活動する人材の育成(教育部生涯学習課)</p> | | | | | | | |
| 主な 予算事業等 (令和3年度の 取組状況) | ① 名称(事業番号) | | ② 決算(見込)額 | | ③ 担当 | | | |
| | ④ 目的と概要 | | | | | | | |
| | ⑤ 事業等実施状況 | | | | | | | |
| | 1 | ① 社会教育団体などとの連携 | | ② - 千円 | | ③ 教育部生涯学習課 | | |
| | | 第7次総合計画1-2(4)の施策である学校と地域の連携を進めるに当たり、スポーツ団体や高校生奉仕活動部などの社会教育団体等と連携を図りながら、学校支援ボランティア事業、おたる地域子ども教室、家庭教育支援事業を実施するとともに、地域住民の持つ知識や経験を生かして様々な学習活動を支えることのできる人材育成を図り、地域の教育力向上を目指す。 | | | | | | |
| | | ⑤ 学校支援ボランティア対象校数と登録者数 令和元年度 28校225人 令和2年度 24校315人 令和3年度 25校206人 | | | | | | |
| | 2 | ① | | ② 千円 | | ③ | | |
| | | ④ | | | | | | |
| | | ⑤ | | | | | | |
| | 3 | ① | | ② 千円 | | ③ | | |
| | | ④ | | | | | | |
| | | ⑤ | | | | | | |
| | 4 | ① | | ② 千円 | | ③ | | |
| | | ④ | | | | | | |
| | | ⑤ | | | | | | |
| 5 | ① | | ② 千円 | | ③ | | | |
| | ④ | | | | | | | |
| | ⑤ | | | | | | | |
| 指標推移の要因等 | ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、学校施設で行う地域住民等のボランティア活動が減少傾向にあるが、令和3年度は学級閉鎖や学校閉鎖の影響で、令和2年度以上に学校支援ボランティア登録者の活動機会が減少したことにより、指標の低下につながっている。 | | | | | | | |
| 令和4年度の取組状況 | <指標推移に関連する主な予算事業等の改善や見直し等> 令和3年度の取組を継続 | | | | | | | |
| 指標推移への対応方針(令和5年度以降) | <指標推移の要因、令和4年度の取組状況等を踏まえた今後の対応方針> | | | | | | | |
| | 1 | 1:各事業をこのまま継続して推進する 2:予算事業等を改善しながら推進する 3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う ・引き続き新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じながら、学校とも連携し、地域で活動する人材の育成と、活動の場の創出に努める。 | | | | | | |

令和4年度 行政評価調書(小施策検討シート)

(2)生涯各期における学習機会の充実

(第7次総合計画 基本計画 P.149)

| 指標 | 指標名 | | 指標の基準年 | | 基準値 | 目標値 | |
|--|---|--|--|-----------|----------------|-----------------|-------|
| | 「市民大学講座、はつらつ講座、やんぐすくーる、生活講座、老壮大学」の人口に対する参加者の割合 | | 平成30年 | | 2.0% | 2.2% | |
| 指標推移 | △ | ◎ : 指標の推移は順調 △ : 指標の推移は順調でない - : 判定不能(実績値なし) | 年度ごとの実績値 | | | | |
| | | | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
| | | | 1.9% | 0.5% | 0.6% | | |
| | | | 指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。(目標値まで増加させる場合の例: 実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△) | | | | |
| 主な取組 | <p>★市民の多様な学習ニーズに応じて開催している「市民大学講座」、「はつらつ講座」、「やんぐすくーる」、「生活講座」などの学習講座の充実や「老壮大学」の活動支援(教育部生涯学習課、福祉保険部福祉総合相談室、生活環境部勤労青少年ホーム、生活環境部勤労女性センター)</p> <p>○家庭教育支援に関する講座等の充実(教育部生涯学習課)</p> <p>○生涯学習プラザや学校施設の活用促進(教育部生涯学習課)</p> | | | | | | |
| 主な 予算事業等 (令和3年度の 取組状況) | ① 名称(事業番号) | | ② 決算(見込)額 | | ③ 担当 | | |
| | ④ 目的と概要 | | | | | | |
| | ⑤ 事業等実施状況 | | | | | | |
| | 1 | ① 市民大学講座実行委員会補助金(01400) | | ② 0千円 | | ③ 教育部生涯学習課 | |
| | | ④ 市民の学習活動の推進に大きな役割を担う企業などとの連携を図り、道内外から講師を招いて、市民の生涯学習の場とする。 | | | | | |
| | | ⑤ 受講者数 令和元年度 540人 令和2年度、令和3年度 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止 | | | | | |
| | 2 | ① はつらつ講座事業(01475) | | ② 1,614千円 | | ③ 教育部生涯学習課 | |
| | | ④ 市民の学習要望を取り入れながら、生涯学習プラザにおいて「はつらつ講座」を開催し、学習機会の充実を図る。 | | | | | |
| | | ⑤ 講座数と受講者数 令和元年度 344回715人 令和2年度 284回318人 令和3年度 290回387人 | | | | | |
| | 3 | ① やんぐすくーる開催経費(00749) | | ② 42千円 | | ③ 生活環境部勤労青少年ホーム | |
| | | ④ 勤労青少年の文化・教養の向上、交流促進等を目的として、外部講師による料理・運動・ものづくりなどの講座を勤労青少年ホームを会場として開催する。 | | | | | |
| | | ⑤ やんぐすくーる開催回数と参加者数 令和元年度 11回89人 令和2年度 7回27人 令和3年度 7回35人 | | | | | |
| | 4 | ① 生活講座等開催経費(00758) | | ② 36千円 | | ③ 生活環境部勤労女性センター | |
| | | ④ 勤労女性等が、余暇を有効に活用し、日常生活に生かせる技術や知識を身につけたり、健康づくりをしながら人の輪をひろげ、豊かな生活を築くことを目的として開催している。 | | | | | |
| ⑤ 開催状況 令和元年度 14講座648人 令和2年度新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止 令和3年度 3講座43人(感染症予防のため規模等縮小し開催) | | | | | | | |
| 5 | ① 老壮大学の運営 | | ② -千円 | | ③ 福祉保険部福祉総合相談室 | | |
| | ④ 概ね60歳以上の市民を対象に、生涯学習を通じて心身共に健康の増進を図る場として、昭和40年度から開設している。 | | | | | | |
| | ⑤ 学生数 令和元年度 218人 令和2年度 188人、令和3年度 146名 | | | | | | |
| 6 | ① 家庭教育支援に関する講座の充実 | | ② -千円 | | ③ 教育部生涯学習課 | | |
| | ④ 第7次総合計画1-2(4)の施策である家庭・地域との連携を進めるにあたり、生涯学習プラザを主な会場として子育て世代の居場所づくりなどを行う「家庭教育支援事業」を実施し、地域全体の教育力向上を図る。 | | | | | | |
| | ⑤ 受講者数 令和元年度 延べ1,967人 令和2年度 延べ490人 令和3年度 延べ551人 ※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により減少 | | | | | | |
| 7 | ① 学校教室等文化開放事業費(01379) | | ② 19千円 | | ③ 教育部生涯学習課 | | |
| | ④ 学校の教室などを文化活動団体に夜間開放し、生涯学習、文化芸術の振興を図る。 | | | | | | |
| | ⑤ 利用者数 令和元年度 延べ4,558人 令和2年度 延べ6人 令和3年度 延べ878人 ※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により減少 | | | | | | |
| 指標推移の要因等 | ・各種学習講座の受講者については、令和2年度から新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けており、令和3年度においても、市民大学講座は中止となり、はつらつ講座、やんぐすくーる、生活講座については活動や定員の制限により受講者が減少し、指標の低下につながっている。 | | | | | | |
| 令和4年度の取組状況 | <指標推移に関連する主な予算事業等の改善や見直し等> 令和3年度の取組を継続 | | | | | | |

| | | |
|-------------------------|-----------------------------------|---|
| 指標推移への対応方針 (令和5年度以降) | <指標推移の要因、令和4年度の取組状況等を踏まえた今後の対応方針> | |
| | 1 | <p>1:各事業をこのまま継続して推進する</p> <p>2:予算事業等を改善しながら推進する</p> <p>3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じながら、安全な講座の運営に努め、また魅力ある講座を開講し、市民の生涯学習の場の創出に努める。</p> |

令和4年度 行政評価調書(小施策検討シート)

(3)図書館の利活用の促進

(第7次総合計画 基本計画 P.149)

| 指標 | 指標名 | | 指標の基準年 | | 基準値 | 目標値 | | |
|--|--|---|---|-------------|-------|-------|-------|--|
| | 市民一人当たりの貸出冊数 | | 平成30年 | | 2.89冊 | 3.20冊 | | |
| 指標推移 | △ | ◎ :指標の推移は順調 △ :指標の推移は順調でない - :判定不能(実績値なし) | 年度ごとの実績値 | | | | | |
| | | | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | |
| | | | 2.62冊 | 2.21冊 | 2.27冊 | | | |
| 指標推移 | △ | ◎ :指標の推移は順調 △ :指標の推移は順調でない - :判定不能(実績値なし) | 指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△) | | | | | |
| 主な取組 | <p>★「学校ブックフェスティバル」の開催など、学校図書館などとの連携による子どもが自ら読書に親しめる環境の整備(教育部図書館)</p> <p>○郷土資料の収集・保存、レファレンス機能の充実(教育部図書館)</p> <p>○読み聞かせボランティアなどの市民ボランティア団体等との協働事業や大学等の他団体との様々な連携による事業の拡大(教育部図書館)</p> | | | | | | | |
| 主な 予算事業等 (令和3年度の 取組状況) | ① 名称(事業番号) | | ② 決算(見込)額 | | ③ 担当 | | | |
| | ④ 目的と概要 | | | | | | | |
| | ⑤ 事業等実施状況 | | | | | | | |
| | 1 | ① 子ども読書活動推進事業費(3019) | | ② 1,907 千円 | | ③ 図書館 | | |
| | | ④ 子どもの読書について専門知識を有し、且つ学校現場に詳しい職員を配置し、図書館がセンター的な立場となって家庭、地域、学校における子どもの読書活動を推進する。 | | | | | | |
| | | 学校ブックフェスティバル:令和元年度 小学校2校 323名 令和2年度 小学校2校 322名 令和3年度 小学校2校 335名 ⑤ 学校図書館運営相談:令和元年度 小学校18校 中学校7校 高校1校 令和2年度 小学校16校 中学校5校 令和3年度 小学校14校 中学校8校 | | | | | | |
| | 2 | ① スクールライブラリー便事業費(2327) | | ② 300 千円 | | ③ 図書館 | | |
| | | 「小樽市子どもの読書活動推進計画」に基づき、市内小中学校に図書館の資料を貸出し、学校図書館の読書環境の整備・充実を支援し、子どもの読書活動の推進を図るとともに、積極的に授業支援を行い、児童・生徒の学力向上を目指す。 | | | | | | |
| | | ⑤ 利用校数・貸出冊数:令和元年度 26校 8,184冊 令和2年度 26校 7,012冊 令和3年度 28校 7,139冊 | | | | | | |
| | 3 | ① 図書資料等整備事業費(1414) | | ② 10,000 千円 | | ③ 図書館 | | |
| 図書資料(一般図書、児童書、新聞、雑誌、官報等)を収集、整理し、利用に供することで、利用者の調査研究、教養、レクリエーション等、多様化するニーズに応え、地域の情報拠点となる図書館として読書環境の充実と蔵書の整備を図る。 | | | | | | | | |
| 蔵書状況:令和元年度 319,041冊 令和2年度 320,965冊 令和3年度 321,094冊 ⑤ 貸出者数・貸出冊数:令和元年度 79,486人 297,716冊 令和2年度 65,869人 247,356冊 令和3年度 68,324人 248,812冊 | | | | | | | | |
| 4 | ① ボランティアとの連携による事業 | | ② 予算なし 千円 | | ③ 図書館 | | | |
| | ④ 読み聞かせボランティアとの連携により、子どもの読書活動を推進する。 | | | | | | | |
| | ⑤ 令和元年度 11回 87人 令和2年度 2回 16人 令和3年度 7回 52人 | | | | | | | |
| 5 | ① 図書貸出窓口拡充事業費(4118) | | ② 328 千円 | | ③ 図書館 | | | |
| | ④ 図書館及び図書館バスでのみ実施していた、図書の貸し出しを市内のサービスセンター(駅前・塩谷・銭函)でも実施する。(令和3年度開始) | | | | | | | |
| | ⑤ 令和3年度貸出者数・貸出冊数:駅前SC 188人 407冊、銭函SC 228人 679冊、塩谷SC 5人 20冊 | | | | | | | |
| 指標推移の要因等 | ・新型コロナウイルス感染症が収束しないため、イベントの中止も多かったほか、来館者もコロナ禍以前の状態まで戻っていない状況が続いており、市民一人当たりの貸出冊数は低調となっている。 | | | | | | | |
| 令和4年度の取組状況 | <指標推移に関連する主な予算事業等の改善や見直し等> 市制100周年記念事業「海の学び事業」で講演、展示、ワークショップを実施するほか、水道局や消防本部などの他部署とも連携した展示等を実施することで、今まで図書館を利用していなかった市民にも図書館をアピールし、利用者の増加に努める。また、令和3年度より試行していた「まちなか図書館」を本格実施する。 | | | | | | | |

| | | |
|-------------------------|-----------------------------------|---|
| 指標推移への対応方針 (令和5年度以降) | <指標推移の要因、令和4年度の取組状況等を踏まえた今後の対応方針> | |
| | 1 | <p>1:各事業をこのまま継続して推進する</p> <p>2:予算事業等を改善しながら推進する</p> <p>3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う</p> <p>・図書スペース開設を希望する町内会や市民団体、民間施設等に図書館で資料として整備しない寄贈図書を利用してもらう「小樽まちなか図書館」を試行し、市民の読書環境の拡充に努めている。</p> <p>・バリアフリー図書の整備を進め、障がいを持つ市民に対しても図書館を利用しやすくなるようサービスの拡充に努める。</p> |

令和4年度 行政評価調書(小施策検討シート)

(4)総合博物館の利活用の促進

(第7次総合計画 基本計画 P.149)

| 指標 | 指標名 | | 指標の基準年 | | 基準値 | 目標値 | | |
|---------------------------------|--|---|---|-------------|----------|----------|-------|--|
| | 入館者数(本館・運河館) | | 平成30年 | | 120,237人 | 140,000人 | | |
| | 年度ごとの実績値 | | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | |
| | | | 127,638人 | 58,390人 | 63,343人 | | | |
| 指標推移 | △ | ◎ :指標の推移は順調 △ :指標の推移は順調でない - :判定不能(実績値なし) | 指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△) | | | | | |
| 主な取組 | <ul style="list-style-type: none"> ★地域の自然、歴史、文化に関する調査・研究や資料収集(教育部総合博物館) ★資料展示や企画展、科学体験などを重視した普及講座の充実(教育部総合博物館) ○動態展示している鉄道施設の活用、鉄道車両の保存・修復(教育部総合博物館) ★学校教育と連携した学習支援の充実(教育部総合博物館) | | | | | | | |
| 主な 予算事業等 (令和3年度の 取組状況) | ① 名称(事業番号) | | ② 決算(見込)額 | | ③ 担当 | | | |
| | ④ 目的と概要 | | | | | | | |
| | ⑤ 事業等実施状況 | | | | | | | |
| | 1 | ① 総合博物館調査研究等事業費(3684) | | ② 1,044 千円 | | ③ 総合博物館 | | |
| | | ④ 小樽及び周辺地域の歴史資料の調査・自然環境に関する調査による歴史資料、自然標本の収集、採集、北海道に関わる鉄道資料を収集し、各種展示や講座等(学習支援も含む)で還元している。 | | | | | | |
| | | ⑤ 令和3年度実績: 稲垣日誌・コロナ禍関係資料の調査研究等を実施 資料収集 6,441点 各種普及講座の実施 36件 学校教育と連携した学習支援 42件 | | | | | | |
| | 2 | ① 本館常設展示改修事業費(3604) | | ② 1,496 千円 | | ③ 総合博物館 | | |
| | | ④ 来館者に、地球環境と気象衛星の科学技術への理解を深めてもらうために、ひまわり8号衛星データ閲覧展示装置を科学展示室に設置する。 | | | | | | |
| | | ⑤ 令和4年3月に設置完了、公開。 | | | | | | |
| | 3 | ① 鉄道歴史体感プログラム事業費(4189) | | ② 20,064 千円 | | ③ 総合博物館 | | |
| | | ④ アイアンホース号の客車を明治時代の客車等にリニューアルし、重要文化財「旧手宮鉄道施設」を利用した動態展示に付加価値を加え魅力的に運用する。 | | | | | | |
| | | ⑤ 令和3年度に整備完了。令和4年度から運用を行う。 | | | | | | |
| | 4 | ① アイアンホース号管理経費(3656) | | ② 3,532 千円 | | ③ 総合博物館 | | |
| | | ④ アイアンホース号の運行、維持管理 | | | | | | |
| ⑤ SLボイラーの整備や性能検査等を実施 | | | | | | | | |
| 5 | ① アイアンホース号維持補修費(3671) | | ② 2,617 千円 | | ③ 総合博物館 | | | |
| | ④ アイアンホース号運行の安全管理を継続することを目的とした修繕 | | | | | | | |
| | ⑤ 令和3年度はアイアンホース号のボイラー加減弁や軌道踏切の修繕を行った。 | | | | | | | |
| 6 | ① 収蔵車両等補修事業費(1430) | | ② 3,379 千円 | | ③ 総合博物館 | | | |
| | ④ 腐食がすすみ、破損、塗装の剥離が進行している屋外展示車両の補修を行う。 | | | | | | | |
| | ⑤ 専門業者が行うさび落としや塗装による補修やボランティア、職員による塗装を行っている。 | | | | | | | |
| 指標推移の要因等 | ・新型コロナウイルス感染症の影響により、入館・閲覧の制限等(臨時休館も含む)のため入館者数が減少している。 | | | | | | | |
| 令和4年度の取組状況 | <指標推移に関連する主な予算事業等の改善や見直し等> コロナ下ではあるが、展示をより魅力的にすることで、入館者の増加を図りたい。そのために、収蔵車両の補修や、アイアンホース号の維持整備を引き続き進め、リニューアルされた客車を活用したアイアンホース号の動態展示については、ボランティアが着用する明治期の制服や発車を告げる鐘を用意し、ストーリー性をより深めた展示とする。また年度途中からは、博物館入館料のキャッシュレス対応が可能となり、外国人旅行者等の利便性がより高まる予定である。 | | | | | | | |

| | | |
|---------------------------------------|-----------------------------------|---|
| 指標推移への対応方針 (令和5年度以降) | <指標推移の要因、令和4年度の取組状況等を踏まえた今後の対応方針> | |
| | 1 | 1:各事業をこのまま継続して推進する 2:予算事業等を改善しながら推進する 3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う ・今後も「主な取組」の事業を継続して推進し、展示物の魅力を向上させることによりコロナ収束後の入館者増加を目指し、調査・研究・資料収集、学校教育や社会教育への支援も継続的に行う。 |

令和4年度 行政評価調書(小施策検討シート)

(5)文学館・美術館の利活用の促進

(第7次総合計画 基本計画 P.150)

| 指標1 | 指標名 | | 指標の基準年 | | 基準値 | 目標値 | |
|--|---|---|--|------------|---------|---------|--|
| | 入館者数(文学館) | | 平成30年 | | 9,138人 | 11,000人 | |
| 年度ごとの実績値 | | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | |
| | | 8,322人 | 5,492人 | 6,968人 | | | |
| 指標1推移 | △ | ◎ : 指標の推移は順調 △ : 指標の推移は順調でない - : 判定不能(実績値なし) | 指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例: 実績値 ≥ 標準値 ⇒ ◎、実績値 < 標準値 ⇒ △) | | | | |
| 指標2 | 指標名 | | 指標の基準年 | | 基準値 | 目標値 | |
| | 入館者数(美術館) | | 平成30年 | | 11,524人 | 13,000人 | |
| 年度ごとの実績値 | | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | |
| | | 10,911人 | 5,599人 | 8,726人 | | | |
| 指標2推移 | △ | ◎ : 指標の推移は順調 △ : 指標の推移は順調でない - : 判定不能(実績値なし) | 指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例: 実績値 ≥ 標準値 ⇒ ◎、実績値 < 標準値 ⇒ △) | | | | |
| 主な取組 | <p>★特別展や企画展、講座の充実(教育部文学館・美術館)</p> <p>○小樽にゆかりのある作家や作品の調査・研究、資料収集及び保存(教育部文学館・美術館)</p> | | | | | | |
| 主な 予算事業等 (令和3年度の 取組状況) | ① 名称(事業番号) | | ② 決算(見込)額 | | ③ 担当 | | |
| | ④ 目的と概要 | | | | | | |
| | ⑤ 事業等実施状況 | | | | | | |
| | 1 | ① 特別展開催経費(1442) | | ② 199 千円 | | ③ 文学館 | |
| | | 小樽出身の作家で過去に山本周五郎賞受賞のほか直木賞候補などの経歴をもつ朝倉かすみ氏を取り上げた「朝倉かすみ展」を開催した。関連事業では朝倉かすみ氏を招聘し特別講演会を行った。コロナ対策による休館がなかったことで一昨年度並みの入館者数は確保できた。 | | | | | |
| | | ⑤ 入館者数 令和元年度 1,181人、令和2年度 605人、令和3年度 1,172人 | | | | | |
| | 2 | ① 特別展開催経費(1452、1453、1854、1855) | | ② 1,853 千円 | | ③ 美術館 | |
| | | 小樽や北海道にゆかりのあるアーティストや作品などを取り上げ、美術の振興や文化の発展を図った。小樽ゆかりの版画家や札幌の蒐集家の作品による展示のほか、舞踏家と現代美術家によるコラボレーションなど行ったが、観覧者数はコロナ対策による休館のため減じた分、更に増が見込めた。 | | | | | |
| | | ⑤ 観覧者数 令和元年度 6,781人、令和2年度 4,094人、令和3年度 7,032人 | | | | | |
| | 3 | ① 企画展等開催事業費(1454) | | ② 6 千円 | | ③ 美術館 | |
| 小樽芸術村と連携した「斎藤清と小樽」展ほか、近年ではPS展文部科学大臣賞受賞など多数の受賞経歴をもつ写真家による「北に生きる猫 土肥美帆作品展」を開催したがコロナ対策による休館のため観覧者数は伸びなかった(707人)。なお、今年度は企画展と特別展を一部並行開催したため観覧者数は特別展の内数となっている。 | | | | | | | |
| ⑤ 観覧者数 令和元年度 903人、令和2年度 709人、令和3年度 6,871人 | | | | | | | |
| 4 | ① 調査研究費(1443) | | ② 159 千円 | | ③ 文学館 | | |
| | 小樽ゆかりの作家等の作品や資料の収集・整理・調査研究を行い、情報の蓄積と展示内容を充実させた。文学館報の発行・配布を行った。道外にてR4企画展の事前調査や打ち合わせを行った。 | | | | | | |
| | ⑤ 館報の発行 令和元年度 第43号600部、令和2年度 第44号600部、令和3年度 第45号600部 | | | | | | |
| 5 | ① 調査研究費(1455) | | ② 273 千円 | | ③ 美術館 | | |
| | 小樽ゆかりの作家等の作品や資料の収集・整理・調査研究を行い、情報の蓄積と展示内容を充実させた。美術館報を年2回発行・配布を行った。道外にて特別展事前調査や資料収集を行った。 | | | | | | |
| | ⑤ 館報の発行 令和元年度 第25・26号各500部、令和2年度 第27・28号各500部、令和3年度 第29・30号各500部 | | | | | | |
| 指標推移の要因等 | ・新型コロナウイルス感染症対策のワクチン接種による行動制限などの緩和により対前年は上回ったものの、依然として入館制限や臨時休館のため入館者数は伸びていない。特に文学館・美術館は立地上、観光地周辺にあり道外や国外からの観光客の利用が多いことも影響している。 | | | | | | |
| 令和4年度の取組状況 | < 指標推移に関連する主な予算事業等の改善や見直し等 > 文学館・美術館ともにコロナ対策により控えていた特別展や企画展の関連事業やその他の体験学習として行ってきたイベント等を感染対策をしっかりと行ったうえで再開し、市民に文化芸術に触れる機会を提供する。 | | | | | | |

| | | |
|---|-----------------------------------|---|
| 指標推移への対応方針 (令和5年度以降) | <指標推移の要因、令和4年度の取組状況等を踏まえた今後の対応方針> | |
| | 1 | 1:各事業をこのまま継続して推進する 2:予算事業等を改善しながら推進する 3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う |
| <ul style="list-style-type: none"> ・館内の感染防止対策をしっかり行い、展覧会やイベント等を積極的に開催することで、作家やアーティストの活動を支援し、また市民や観光客等には文化芸術に触れる機会を増やしていく必要がある。 ・資料収集等については、展示内容の充実を図るため、継続する必要がある。 ・特別展については、施設を利用する契機にもなるため、質を落とすことなく目玉展示を開催する。 ・企画展については、タイムリーな話題など取り上げ、地元住民の利用を促進する。 | | |